

令和3年6月 定例会（第2回）会議録（抜粋）

◆10番（浅沼美弥子） 10番、公明党の浅沼美弥子でございます。通告に基づき、一問一答方式で個人質問を行います。

1、新型コロナワクチン接種事業、(1)、余剰ワクチン廃棄防止の工夫。余剰ワクチンを廃棄することなく活用する自治体の取組が進んでいます。埼玉県戸田市のコロナワクチンもったいないバンクに希望者を募集する取組や、新潟県三条市の教職員や保育士などを事前に登録して接種する取組などです。一方で、首長をはじめとした自治体幹部の明確でない優先接種に厳しい目が向けられた事例も発生しております。

①、予約者が来なかった場合の対応について、どのようにしてきたかお伺いたします。

◎健康子ども部長（酒井和広） お答えいたします。

市の集団接種におきましては、キャンセルや当日接種不可となった方のワクチンにつきましては、あらかじめ集団接種会場に関わる医療従事者をリスト化いたしまして、接種を行い、活用しているところでございます。

◆10番（浅沼美弥子） ②、余剰ワクチンの優先接種について。ルールの透明性と市民への説明について伺います。

◎健康子ども部長（酒井和広） お答えいたします。

市の集団接種におきましては、高齢者への優先接種を円滑に進め、ワクチンの余剰分を有効活用するため、対象となる高齢者の方に5月28日からキャンセル待ちに登録していただけるようにいたしまして、余剰ワクチンが発生しないように取り組んでいるところでございます。周知方法といたしましては、市ホームページ及び「広報いんざい」6月1日号でご案内いたしまして、市ホームページからの申込みとコールセンターでの登録を受け付け、抽せん方法として実施しているところでございます。

◆10番（浅沼美弥子） 25日のホームページに掲載されましたので、確認をいたしました。よい取組だと思えます。

次に、③、優先順位（医療従事者を除く）②として位置づけているのが基礎疾患のある方、高齢者施設等の従事者ですが、この把握と接種券の配布予定について伺います。

◎健康子ども部長（酒井和広） お答えいたします。

基礎疾患のある方につきましては自己申告となりまして、年齢構成といたしても把握することが困難となります。このことから、年齢を区切って接種券を発送する予定でございます。今後の予定といたしましては、初めに接種券を60歳から64歳の方に発送いたしまして、この年代の方は基礎疾患のある方と同時に予約できるようにしたいと考えております。次に、60歳未満の年代の方につきましては年齢を区分し、段階的に接種券を発送する予定でございますが、基礎疾患のある方を対象に期間を設けて予約を先行する予定であります。また、高齢者施設等の従事者につきましては、接種券つき予診票を施設ごとに市が発行し、既にお渡ししております。高齢者施設等には既にアンケートを取らせていただき、診察やインフルエンザ等の予防接種をふだんから行う嘱託医が今回の新型コロナウイルスワクチン接種が可能であれば、施設職員についても施設内で接種を実施していただいております。また、嘱託医が接種に関して、準備が困難な施設に関しましては市が巡回接種を行い対応し

ているところでございます。

◆10番（浅沼美弥子） ④です。9月に海外留学等を予定しているなど、特別な事情がある人への優先接種の対応について伺います。

◎健康子ども部長（酒井和広） お答えいたします。

多くの方々が様々な特別な事情があるものと思われるので、国から示される接種に関する通知に従うとともに、千葉県や他自治体の対応等、情報収集に努めてまいりたいと考えております。

◆10番（浅沼美弥子） 2、コロナ禍で顕在化する女性の人権問題、リプロダクティブ・ヘルス／ライツ。

（1）、生理の貧困問題。①、経済的理由から生理用品を購入することが難しい女性がいる問題は生理の貧困と呼ばれ、コロナ禍で顕在化しています。今年2月に『#みんなの生理』という団体が実施した調査結果から、経済的な理由により生理用品の入手に苦労したことがあると答えた人が20%、生理用品でないものを使ったことがある27%、交換頻度を減らして節約した割合は37%という深刻な事態に衝撃が走りました。これは発展途上国だけではなく、格差が広がっている先進国においても問題になっており、イギリスでは2020年から全国の小中、高校で生理用品が無償で提供されたほか、フランス、ニュージーランド、韓国などでも同様の動きがあります。昨年10月、先ほどの『#みんなの生理』から要望を受けた公明党は、3月4日、いち早く国会で取り上げ、3月15日には菅首相に申入れを行いました。さらに、全国の公明党の地方議員が要望活動を開始し、取組が進みました。公明党千葉県女性局では、この取組、39市町の千葉県の取組状況の一覧を添えまして、5月14日、熊谷千葉県知事に要望書を手渡しました。当市におきましては、3月23日、会派公明党といたしまして防災備蓄品を活用した生理用品の配布など、4項目にわたるコロナ禍における女性の負担軽減に関する緊急要望書を板倉市長に提出させていただきました。当初今年中に備蓄期限を迎える生理用品を多少消費期限が延長しても問題なしと判断し、来年度の備蓄品の交換時期に配布を検討するという回答でした。その後の取組状況を伺います。

◎市長（板倉正直） お答えをいたします。

議員ご質問の女性の人権問題といたしまして、新型コロナウイルス感染拡大の影響による生活困窮により、生理の貧困が社会問題化されていることは私といたしましても認識をしておるところでございます。当市といたしましては、その対応として防災課に指示をし、災害時用の備蓄品を活用し、配布要望があった教育委員会、教育部指導課及び福祉部社会福祉課を通じ、生理用品の無償配布を実施したところでございます。

以上でございます。

◆10番（浅沼美弥子） 生理用品の無償提供に道を開いてくださったことに感謝し、評価したいと思います。

さて、5月19日、全国自治体の生理の貧困に係る取組状況の調査結果が内閣府から公表されました。生理の貧困に係る取組を実施した、実施を検討している自治体は全国で255、生理用品等の調達元としては防災備蓄品が184件と最も多く、次いで予算措置55件、企業や住民からの寄附が44件、千葉県内では印西市をはじめ21市町が災害備蓄品を活用した取

組を実施しました。柏市、四街道市は、予算措置をして実施をしています。今回印西市では、備蓄品 1 パック 15 枚入りを全体では 160 パック、2,400 個配布予定とし、そのうち社会福祉課として 5 月 11 日からいんざいワーク・ライフサポートセンターで継続的に支援に関わっている対象者に必要に応じて配布を始めたことと承知しております。配布状況はいかがでしょうか。

◎福祉部長（富澤実） お答えいたします。

1 パック 15 枚入りの生理用品 64 パックを市が生活困窮者自立相談支援事業を委託しておりますいんざいワーク・ライフサポートセンターを通じ、1 家庭当たり 2 パックを条件に無償配布しているところでございます。なお、配布状況は現在までに 4 世帯、8 パック配布しているとのこととございます。

以上でございます。

◆10 番（浅沼美弥子） 我孫子市や白井市では、カードを提示しただけで声を出さずに配布できるような気遣いをしています。国際女性デーのシンボルと言われるミモザのカードを見せるだけでこのように提供できたり、また生きづらさを抱えた女性が相談できる窓口の一覧と一緒に同封するなど、必要な支援につながるよう工夫をしたりしております。このような対応をしつつ、市役所の関係窓口や公民館、児童館等配布場所も他市の事例を参考に柔軟に検討し、速やかに配布することを検討してはどうか伺います。

◎福祉部長（富澤実） お答えいたします。

今後の在庫状況を勘案しつつ、配布方法、配布場所につきましても他市の事例を参考に検討してまいりたいと、このように考えております。

以上でございます。

◆10 番（浅沼美弥子） 物がなければ配布もできませんものね。それでは、品川区である会社が広告収入で生理用品の無償配布を行うサービスを今年の夏商品化するそうです。埼玉県商業施設において実証実験を行い、94%の利用者がいい取組だということで評価をされたということでございます。こういったものも情報収集をしていただきたいと思っております。さて、この 3 月 23 日、市長に要望書を提出させていただきました後、大木教育長にも要望書を提出、そして懇談をさせていただきました。今回教育指導課として 96 パック配布と承知しております。対応状況を伺います。

◎教育長（大木弘） お答えいたします。

要望書を受けまして、5 月 21 日に開催をいたしました学校保健会養護教諭部会におきまして、各学校の児童生徒数に応じて配布をしたところでございます。

以上でございます。

◆10 番（浅沼美弥子） 改めまして、校長先生や養護教諭の皆様には生理の貧困問題の対応について周知していただき、継続して注視、共有する課題との視点を持っていただいたことに評価させていただきます。保健室での対応の状況調査の結果から、今後の保健室での生理用品に関する対応について何か変化がありましたか。

◎教育長（大木弘） お答えいたします。

生理用品を用意できない児童生徒への対応の際に、適切な保健指導やその子が抱える課

題の把握を適切に行うよう、改めて養護教諭研修会や校長会議を通して周知をしたところでございます。

以上でございます。

◆10番（浅沼美弥子） これまで印西市教育委員会としては、小中学校のトイレには置かないと、理由は教育的観点から、また保健室において申出により生理用品を今も渡していますけれども、返却を求めたりする取扱いとなっている現状ということでお話を伺っております。今の答弁をお聞きいたしまして、この方針に変化はないと理解をさせていただきました。同様にトイレには置かない対応を表明している市は、そのほかにもたくさんあります。八街市、八千代市、船橋市、市川市、松戸市、習志野市、鴨川市、九十九里町などです。一方で千葉市では、今回保健室常備の生理用品の返却は無用との通知を学校に出しております。

そのほかの取組についてももう少し紹介したいと思います。3月23日、千葉県内で一番先に印西市緊急要望させていただきましたが、そのときに同時にほかに3つの市と町が要望を出しました。木更津市は、3万個の備蓄がありました。危機管理課が14か所の備蓄倉庫から半数の1万5,000個を集め、学校、公民館へ配布し、4月30日から市民活動支援センターのトイレにも設置、地域交流センターでは、トイレに案内カードを設置して、受付で袋を渡すことにしました。また、教育委員会の対応としては、従来は学校の保健室で対応していたが、4月30日より防災備蓄品を活用して、公民館と小中学校の女子トイレにも設置するようになりました。また、君津市、1万2,000個を備蓄しております。小中学校の女子トイレ、小学校4年生以上に配備しました。これは県内初めてで、4月19日からでございます。それから、もう一つが横芝光町です。3箱、3,456枚を備蓄しております。そのうち1箱を福祉課窓口と社会福祉協議会窓口で配布、健康子ども課でも配布をいたしました。特に健康子ども課では、ひとり親家庭へ案内状を発送したそうでございます。教育課では1箱1,152枚を中学校2校の保健室に置き、養護教諭から小学校にも呼びかけるそうです。社会文化課では、1箱を私立高校へ300枚配布、残りを町民会館、文化会館、図書館の女子トイレに設置しました。町は、このことによって新品5箱3,600枚を購入いたしました。以上が県内の3月23日に要望書を出したところの実績でございます。

ネグレクト等によって十分に生理用品が手に入らず、代用品で我慢している子供の存在というのが社会に衝撃を与えております。先生に相談したり、保健室に行けば生理用品をもらえるけれども、家庭のことを知られたくない、借りたら返さなくてはならない、毎月毎月言い出せない、子供自身が虐待の自覚がなく隠したがるために支援につながない現状があるから問題となっております。子供のことは、教師が何でも把握できるよう努力していただくことは本当にありがたいことでございます。しかし、このようなことが、見えないけれども、聞こえないけれども、実際身近にあるかもしれないと考えたとしたら、今まさに困っている子を救うためには一番子供の身近にある学校、図書館、児童館等子供が集まる場所のトイレに設置いたしまして、誰に申告することなく、無償で手に入れられるようにすることも必要ではなかろうかと考えております。誰一人取り残さない社会をつくっていきたく願うばかりでございます。

さて、会派公明党では3月27日、サザンプラザで寺子屋&子ども食堂さくらさんが実

施した生活困窮者への食料品配布等の事業を視察させていただきました。その一角で生理の貧困に取り組む市民団体、Shake Handsさんの展示を見させていただき、副代表の方と懇談をさせていただきました。この団体は、熊本地震以降活動を開始、生理の貧困解決への取組は人間尊重の精神に基づいた人間教育に通じる重要な問題と認識、家庭内の問題としてしまうのではなく、学校、地域が連携、協働することで、真の問題解決につながると考え、活動しておられます。今後は学校、公共施設での生理用品無償提供や教育、啓発活動など、各公民館や市教育委員会に理解を求め、協力いただけるよう取り組みたいと語っておられました。たまたまさくらさんの事業に参加されていた家庭教育学級の関係者2名をご紹介させていただき、つなげさせていただくことができました。市内には、このように困窮対策や生理の貧困問題に取り組む民間団体があり、多くの女性が生き生きと活躍されておられます。

このたび政府は公明党の主張を受けまして、地域女性活躍交付金を13億5,000万円拡充し、生理用品の無償配布を可能とする仕組みをつくっていただきました。交付金は、困窮女性を支援する民間団体に自治体が事業を委託する場合の委託料の4分の3を国が負担、残り4分の1も地方創生臨時交付金を利用できる仕組みと聞いております。そこで、②、地域女性活躍推進交付金を活用するなど、民間団体との連携で継続的支援の仕組みを構築できないか伺います。

◎市民部長（岡本一弘） お答えいたします。

地域女性活躍推進交付金に新たに追加措置されましたつながりサポート型につきましては、困難や不安を抱える女性や女の子の相談支援や居場所づくりなどに関する新規及び拡充事業を民間団体に委託する場合に、相談支援の一環として対象者への生理用品の提供も可能としており、生理用品の提供を主たる目的とした場合は、交付金の事業目的に適さないとされており、議員ご提案の交付金の活用に当たっては、各種事業においてそのような相談支援や居場所づくりなどに関する事業を民間団体に委託することが必要とされております。このようなことから、生理用品の配布も可能なこれらを担える民間団体についても実態把握が必要であると考えております。

以上でございます。

◆10番（浅沼美弥子） 4月5日の参議院決算委員会で丸川男女共同参画担当大臣は、交付金は学校での生理用品配布にも活用できると示し、学校、教育委員会と連携し、それぞれの自治体で取り組んでもらいたいと述べたと報道されております。資源もあります。仕組みもあります。それをつなげ、実現させるのが市の役割ではないでしょうか。当市におきましても、持続可能な取組が可能となるよう今後の担当課の手腕に期待したいと思います。

さて、今回の取組をきっかけに防災課におきましては食料品の備蓄を困窮者の支援にも活用するという選択肢を検討していただくことになったことや、また食料品以外のこういった生理用品など、物品についての適切な管理方法、ローリングストックの検討など見直すよい機会になったと思います。この点についても、今後しっかりと改善を注視してまいりたいと思っております。

次に、(2)、予期しない妊娠に関する相談窓口の案内の現状について伺います。

◎健康子ども部長（酒井和広） お答えいたします。

予期しない妊娠に関する相談窓口といたしましては、千葉県で行っております365日対応の電話相談及びメール相談ができます「にんしんSOSちば」をご案内しているところがございます。

◆10番（浅沼美弥子） 今後ホームページなどでもしっかりとつながるようにご検討いただきたいと思っております。

3、災害時の避難所におけるペットの受け入れ。市は、令和3年4月1日にペットとの避難における避難所運営手引を作成いたしました。（1）、手引作成の経緯、目的等について伺います。

◎環境経済部長（土屋茂巳） お答えいたします。

近年過去に例を見ない想定外の災害が多発し、防災意識が高まる中、災害時におけるペットとの避難に対する関心も高くなっております。災害時に飼い主がペットを同行し、避難場所まで安全に避難することを同行避難といたしますが、ペットを連れて避難した場合、他の避難者との間でペットを原因としたトラブルも想定されます。そのような問題を未然に防ぐためには、避難所での一定のルールが必要となりますので、同行避難に備えたペットのしつけや必要な物資、避難所におけるルールなどを市民の皆様幅広く知っていただくために、ペットとの避難における避難所運営手引を作成したものでございます。

以上でございます。

◆10番（浅沼美弥子） （2）、同行避難の体制整備と現状と課題について伺います。

①、ペットの受入れ可、不可の避難所の公表についての考えを伺います。

◎環境経済部長（土屋茂巳） お答えいたします。

全ての避難所において、ペットの同行避難は可能としておりますが、避難される方の中には動物アレルギーを持つ方や動物が苦手な方がおられることも考慮し、ペットの飼育場所は人の居住スペースと分けられ、原則屋外としております。しかしながら、大切なペットと飼い主と一緒に過ごせる同伴避難可能な避難場所2か所を設定しております。なお、災害状況により開設される避難所が異なることから、混乱を避けるため、手引には受入れ可能な避難所は掲載していませんが、公表することやその方法等については今後検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◆10番（浅沼美弥子） ③、避難所でペットが過ごす場所の設定はされていますでしょうか。

◎環境経済部長（土屋茂巳） お答えいたします。

ペットの受入れ方法につきましては避難所ごとに異なりますが、ペットと飼い主と一緒に過ごせる同伴可能な避難所を2か所、屋根つきの倉庫などでペットのみの避難スペースも設けている避難所を6か所設定しております。

以上でございます。

◆10番（浅沼美弥子） ④、避難生活の長期化に対応したペット専用の避難所設置の検討はいかがでしょうか、伺います。

◎環境経済部長（土屋茂巳） お答えいたします。

避難生活が長期に及ぶ場合における避難所でのペット飼育につきましては、ペットを飼っていない方への配慮やペット自身のストレスの軽減を図るため、親戚や友人、ペットホテルに別途を預けるなどの方法を検討していただくこととしておりますが、このことにつきましてはさらに調査研究してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◆10番（浅沼美弥子） ⑤、獣医師会や愛護団体との連携の状況はいかがでしょうか。

◎環境経済部長（土屋茂巳） お答えいたします。

慣れない避難所におきましては、ペットが体調を崩し、下痢や嘔吐、食欲不振など、ストレスの兆候があると伺っております。このようなことから、市では平成29年2月に獣医師会印旛支部と災害時の動物救護活動に関する協定を結んでおります。なお、愛護団体との協定につきましては、現時点では結んでいないという状況でございます。

以上でございます。

◆10番（浅沼美弥子） 今回再質問はしませんでしたけれども、大体の様子は分かりました。今回お聞きいたしまして、課題は多くあると思います。神奈川県秦野市では、人とペットの防災ハンドブックを作成して、日頃の備え編とか飼い主とペットの避難編と分かりやすく準備や心構えを示しております。また、平常時に飼い主やペット避難を支援する団体との連携が重要だと思っておりますけれども、まだ実践例が少ないということでございます。一般社団法人HUGなど、様々な団体がペット避難を支援し、ワークショップや講演会などを開催しております。また、環境省は避難ペット対策の課題事例をまとめていますけれども、熊本県の熊本市では同行避難訓練の必要性が反省点として挙げられたりしております。様々な課題をこれからまた一つ一つ、課題解決のためにまたしっかりと対策を取っていただきたいなということを感じました。

それでは次に、4に移ります。安全安心なまちづくり、市民相談や過去の議会質問の進捗状況等を伺ってまいります。

（1）、水道事業、①、印西中学校周辺地区における水道布設の事業化について伺います。

◎上下水道部長（笹田和人） お答えいたします。

印西中学校周辺地区の水道整備につきましては、本年度に基礎調査を行い、事業化について検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◆10番（浅沼美弥子） ②、令和3年5月13日に発生いたしました小林北地区、全域が断水したわけですが、この断水について説明を求めます。

◎上下水道部長（笹田和人） お答えいたします。

本年5月13日午後7時頃に発生いたしました小林北地区全域の断水につきましては、現在詳しい原因を調査中でございますが、小林北地区に向かう水道管におきまして、圧力を下げるために設置しております減圧弁が何らかの原因により管を閉塞してしまったものと思われまます。対応といたしましては、小林北地区への配水ルートの切替え作業を行い、同日

午後9時30分頃に復旧したものでございます。

◆10番（浅沼美弥子） この減圧弁なのですけれども、市内にはほかに2か所減圧弁があると聞いております。かなり古いものということなので、断水とか起こる前にしっかりと点検をしていただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

◎上下水道部長（笛田和人） お答えいたします。

市営水道エリアの減圧弁につきましては、小林地区のほかに木下地区に2か所設置されております。それらにつきましても早急に点検を行い、水運用に支障がないよう努めてまいりたいと考えております。

◆10番（浅沼美弥子） ③、水道スマートメーターの導入についての見解を伺います。

◎上下水道部長（笛田和人） お答えいたします。

通信機能のついた水道スマートメーターにつきましては、自動検針ができるほか、リアルタイムで使用状況が分かり、漏水の早期発見や高齢者の見守りにも活用できることから、小規模単位で導入した自治体におきまして一定の成果が出ているという事例を把握しております。また、現在東京都では大規模な導入による実証実験が予定されておりますので、市水道事業といたしましてはこれらの結果などを注視しているところでございます。

以上でございます。

◆10番（浅沼美弥子） （2）、住居環境の問題です。①、県道印西印旛線沿いの空きマンションについての状況把握と対策について伺います。

◎都市建設部長（櫻井敦） お答えいたします。

当該賃貸マンションにつきましては、全住戸に住民がいないために空き家として把握しております。当該空き家に対する近隣からの相談につきましては、これまで所有者の成年後見人の方に対応をお願いしているところでございますが、先日所有者が亡くなられたことが分かりましたので、今後は法定相続人になる方に適切な管理をお願いしてまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

◆10番（浅沼美弥子） 同時に下に水がたまっておりまして危険だという市民からの声がございまして、そういった点の対策についても検討していただきたいと思います。

（2）の②、賃貸住宅の安全性に対する市の取組を伺います。

◎都市建設部長（櫻井敦） お答えいたします。

賃貸住宅の老朽化や管理不全などによる建物の安全性に関する相談につきましては、公益財団法人住宅リフォーム紛争処理支援センターなどの賃貸住宅に関する相談窓口を紹介しているところでございます。

以上でございます。

◆10番（浅沼美弥子） （3）です。集中豪雨や台風による浸水、冠水対策、また道路、水路の整備について伺いたいと思います。

①、金山落の課題、そして進捗状況を伺います。

◎総務部長（岩崎博司） お答えをいたします。

金山落の課題につきましては、令和元年度第2回定例会でご答弁いたしましたとおり、



当該地には旧来の土水路が残っておりますので、土砂の堆積や雑草の繁茂による水路の水が滞留いたしまして、排水機能に低下があるものと認識しているところでございます。そのため、令和元年7月に千葉県印旛土木事務所と共に関係各課で現地を確認いたしまして、金山落の流路や排水路としての現況の把握をし、その後印旛土木事務所により排水路の一部のしゅんせつを行ってございます。なお、印旛土木事務所につきましては、今後も町内会等から要望がございましたら排水路の維持保全のための清掃等を行っていくということで確認をいたしているところでございます。

以上でございます。

◆10番（浅沼美弥子） 解決に向けてしっかりと取り組んでいただきたいと思います。ほかにも課題があるということは認識していただいていると思いますので、よろしく願いいたします。

②、竜腹寺1122号線の冠水対策について伺います。

◎都市建設部長（櫻井敦） お答えいたします。

竜腹寺1122号線につきましては、地形的な問題や沿道の土地利用形態の変化などにより、道路上に滞水が生じる状況がございまして、現地の状況をよく調査し、対応を検討してまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

◆10番（浅沼美弥子） 市民の方が水がたまって大変に困っておる状況ですので、しっかりと対策をお願いいたします。

③、浦部地区00—101号線、01—041号線の舗装修繕等について対応を伺います。

◎都市建設部長（櫻井敦） お答えいたします。

浦部地先の市道00—101号線、市道の01—041号線につきましては、路肩の損傷や舗装面の劣化が確認されており、現在補修工事の準備を進めているところでございます。

以上でございます。

◆10番（浅沼美弥子） よろしく願いいたします。

それでは、最後、5です。SDGsについて、市民等の理解を深める取組をどう推進する考えか伺いまして、私の質問を終わります。

◎企画財政部長（小林正博） お答えいたします。

SDGsの市民の皆様等への理解を深める取組といたしまして、令和2年度は市広報紙への掲載や市内の小中学校、高等学校、専門学校、大学へポスターの掲示を依頼するなど、様々な啓発を行ったところでございます。令和3年度以降の取組といたしましては、印西市総合計画第1次基本計画との一体的な推進を図ることとしておりますが、市民の皆様等への啓発といたしましては、引き続きポスターなどによる啓発のほか、広報紙の活用や一般社団法人SDGs支援機構からSDGsが理解しやすいアニメーションによる啓発用動画の提供を受けまして、様々な機会に活用し、啓発をしてまいりたいと、かように考えておるところでございます。

以上でございます。